



TITLE:

本年十二月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

本年十二月の天象. 天界 1928, 9(93): 70-73

ISSUE DATE:

1928-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161350>

RIGHT:

本年十二月の天象

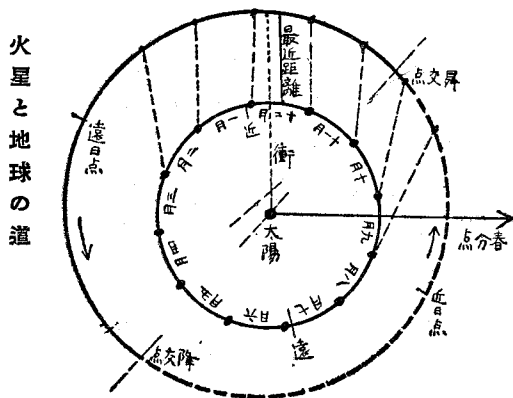
火 星

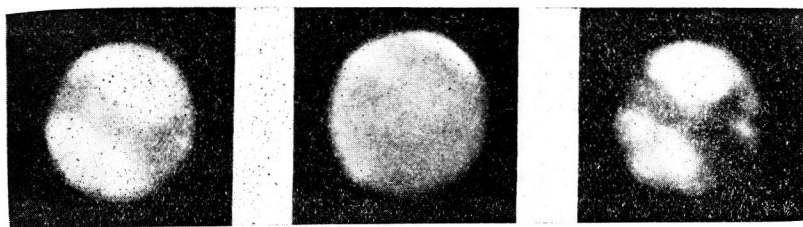
月始めは双子座にあり、同座 ϵ 星の西に近く輝いてゐるが次第に逆行して9日には同座 μ 星の北4度の邊を通り過ぎ、下旬には牡牛に入つて、月末には同座 β 星の東南まで来る。

月末三十一日夜には一微恒星 B. D. +26°9'12" を掩蔽する。詳細は本誌第45頁を見られよ

	十二月0日	10日	15日	20日	30日
赤經	6時31分	6時17分	6時8分	5時59分	5時43分
赤緯	北25.6度	北26.2度	北26.4度	北26.6度	北26.8度
視直径	15.4秒	15.9秒	16.0秒	15.9秒	15.4秒
光度	負1.2等	負1.3等	負1.4等	負1.4等	負1.3等
距離	0.607	0.588	0.585	0.588	0.608
光達時間	5分2秒	4分53秒	4分52秒	4分53秒	5分2秒
經度	266度	177度	133度	89度	2度

距離は火星・地球間の距離を、太陽・地球間の距離を1とした尺度で表はしたもので、即ち今月は大體太陽と地球との距離の半分程に近寄つてゐるわけである、光達時間は其の距離を光が進むに要する時間で、例へば地球から燈火信號をしたならば、それが火星に到達するに要する時間である、經度は、各日の午後9時に火星面の中央に見える火星の經度である。





(写真 米國リック天文臺でライト氏撮影：左は赤外線，中央は莖外線，右はオレンジ色にて撮影せる火星。)

太 陽

月始め人馬宮にあり，22日から磨羯宮に侵入する。星座は蝸座と蛇遣ひ座の南部を通過して下旬に射手座に入る。視直径は月始め32分30秒，月末は32分35秒，太陽中心と天の北極を連ねた線に對して，太陽の自轉軸は

1日午前九時には東方へ16.2度傾き，

11日 〃 〃 12.1度 〃 21日 〃 〃 7.5度 〃

31日 〃 〃 2.7度傾いてゐる。

又太陽の赤道は太陽の視中心から

1日午後九時には南へ 0.8度の處， 11日 〃 北へ 0.5度 〃

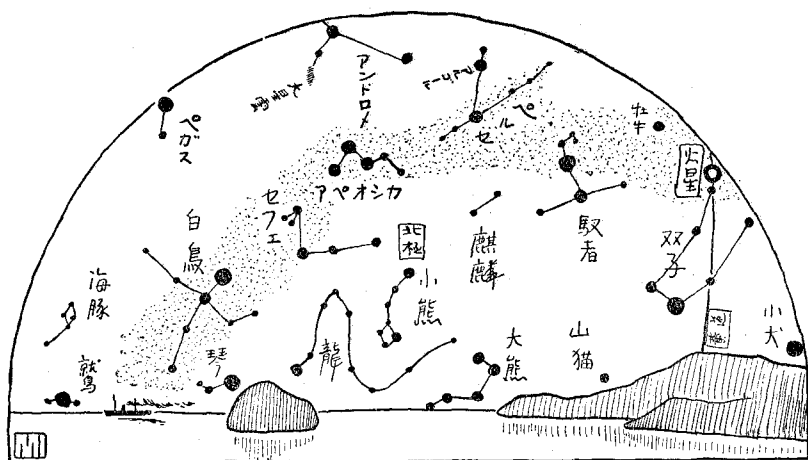
21日 〃 〃 1.8度 〃 31日 〃 〃 3.0度の處を

通つてゐる。

月

下弦	4日午前11時31.5分	星座は獅子座	視直径は31分
新月	12日午後2時6.1分	〃 蛇遣座	〃 29分
上弦	20日午後0時43.4分	〃 魚座	〃 31分
満月	27日午前4時54.8分	〃 双子座	〃 33分
遠地點通過	11日午後6時過	〃 蝸座	〃 29分
近地點通過	26日午前11時半	〃 牡牛座	〃 33分

3日に海王星に近づき，12日に水星に近付いてその直ぐ南を通りすぎ其の後土星の傍を通り，16日には金星の南を通過し，20日に天王星と並び，22日には木星の横を過ぎて26日は火星に甚だ接近する。そして30日に再び海王星の近くを過ぎて行く。



北 天

遊 星 界

水星. 中旬まで暁の星であるけれど、次第に太陽に近づいて、18日には外合となる。従つて観望は月始め極く暫らく。

金星. 宵の明星として次第に輝きを増し、且つ太陽からも次第に離れて来るので観望には都合がよくなつて来る。位置は射手座の東部から山羊座の中央部に進む。光度負3.7等。

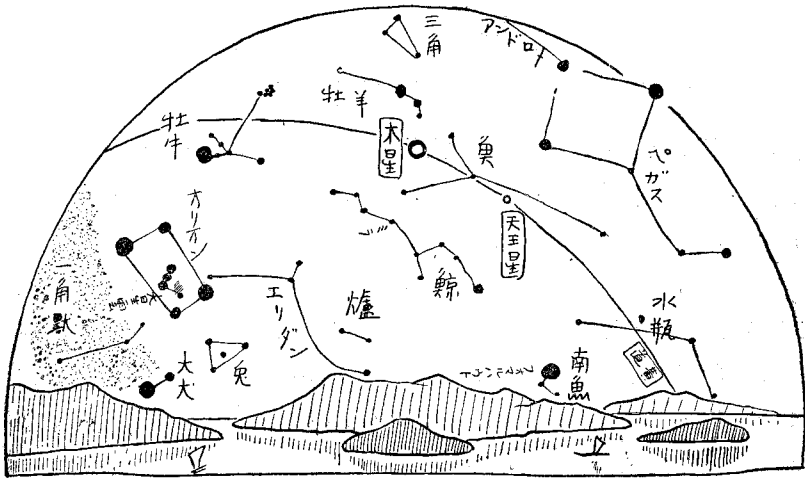
火星. 観望の好期。見逃がす可からざるの時である。光度は負1.4等。位置は双子座の西部から牡牛座の東部へ逆行中。

木星. 火星の先驅をなして、此れも観望に都合のよい位置にゐる。視直径42秒(角度)光度は負1.4等。羊の東部に在り。

土星. 月始めは宵の西天に僅かに認め得るが太陽に近づいて13日には太陽と合、其以後は暁の星だが観望には不便。

天王星. 木星の先驅をなして魚座で、春分點に近い。光度は6.1等。宵の星である。

海王星. 暁の星で光度7.7等。獅子座α星の近くに位する。



南 天

恒 星 界

オリオンの大星雲が勇大な、其の姿を臂の東天に現はす頃になるこ、天上にも地上にも冬がおこづれて来る。

天上の最も麗はしい部分、オリオン星座は吾人の最も親しみ深い、冬の星座の代表者である所謂オリオンの「三つ星」の中央の星 ϵ の眞南に5等星が3個、南北に並んでゐる、それ3個の中央の星 θ の附近に、彼の大星雲はある。その壯観は本號口繪で御承知あれ。双眼鏡でも此の存在は認められる。

銀河は北側を東西に流れ、白鳥や鷺は西に低く、アンドロメ、ペルセ等が天頂に座を占め、東にはオリオンに續いて大犬、小犬が登つて来る。南には南魚のフオマルホウトが地平線に近く、今子午線を通過してゐる星座は、爐、鯨、羊、三角、アンドロメ、ペルセ、カシオペア、小熊等、

遊星界の大立物、木星と火星が我が物顔に輝いてゐる、其の附近一帯に巨星が集つて甚だ賑やかである。